

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 人間の尊厳と自立		授業の種類 通信学習	授業担当者 穎川 厚子 大田原 優子
授業の回数	時間数 5 時間	配当時期 1 月 目	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] ○尊厳の保持を理解する。 ○自立・自律の支援を理解する。 ○ノーマライゼーションを理解する。 ○利用者のプライバシーの保護、権利擁護等、介護の基本的な理念を理解する。 [授業全体の内容の概要] ・人間の尊厳と自立 (実務者研修テキスト 1 巻 『第 1 章 人間の尊厳と自立』) [授業修了時の達成課題（到達目標）] ○尊厳の保持、自立の支援、ノーマライゼーション、利用者のプライバシーの保護、権利擁護等、介護の基本的な理念を理解している。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
日程	各回のテーマ・内容	授業方法	
1 月 目	人間の尊厳と自立	○各自テキストを精読し、理解度を深めた上で、学習課題提出等により、習得度の確認を行う。 ○e ラーニング利用の受講生は、専用の Web ページにて解答し、合格点に達するまで繰り返し学習する。e ラーニングの利用環境にない受講生は、別途学習課題を配布し、合格点に達するまで繰り返し再提出すること。	
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]	
○株式会社日本医療企画 発行 実務者研修テキスト 1 巻 ○その他、適宜プリントを配布		○e ラーニング利用の受講生 専用の Web ページにて解答し、7 0 点以上でその学習課題を修了とする。7 0 点未満の場合は7 0 点以上を取得するまで繰り返し問題を解かなければならない。 ○e ラーニングの利用環境にない受講生 別途配布される学習課題で7 0 点以上を取得すること。7 0 点未満の場合は、7 0 点以上を取得するまで、繰り返し再提出しなければならない。	

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 社会の理解Ⅰ		授業の種類 通信学習		授業担当者 穎川 厚子 大田原 優子													
授業の回数	時間数(単位数) 5 時間	配当時期 1 月 目		必修・選択 必修													
[授業の目的・ねらい] ○介護保険制度の体系、目的を理解する。 ○介護保険制度のサービスの種類と内容、利用までの流れ、利用者負担を理解する。 ○介護保険制度の専門職の役割等を理解する。 ○介護保険の実施状況と今後の課題を理解する。 [授業全体の内容の概要] ・介護保険制度 (実務者研修テキスト1 巻 『第2 章 介護保険制度』) [授業修了時の達成課題（到達目標）] ○介護保険制度の体系、目的、サービスの種類と内容、利用までの流れ、利用者負担、専門職の役割等を理解し、利用者等に助言できる。																	
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] <table><tr><td>日程</td><td>各回のテーマ・内容</td><td colspan="4">授業方法</td></tr><tr><td>1 月 目</td><td>介護保険制度</td><td colspan="4">○各自テキストを精読し、理解度を深めた上で、学習課題提出等により、習得度の確認を行う。 ○e ラーニング利用の受講生は、専用の Web ページにて解答し、合格点に達するまで繰り返し学習する。e ラーニングの利用環境にない受講生は、別途学習課題を配布し、合格点に達するまで繰り返し再提出すること。</td></tr></table>						日程	各回のテーマ・内容	授業方法				1 月 目	介護保険制度	○各自テキストを精読し、理解度を深めた上で、学習課題提出等により、習得度の確認を行う。 ○e ラーニング利用の受講生は、専用の Web ページにて解答し、合格点に達するまで繰り返し学習する。e ラーニングの利用環境にない受講生は、別途学習課題を配布し、合格点に達するまで繰り返し再提出すること。			
日程	各回のテーマ・内容	授業方法															
1 月 目	介護保険制度	○各自テキストを精読し、理解度を深めた上で、学習課題提出等により、習得度の確認を行う。 ○e ラーニング利用の受講生は、専用の Web ページにて解答し、合格点に達するまで繰り返し学習する。e ラーニングの利用環境にない受講生は、別途学習課題を配布し、合格点に達するまで繰り返し再提出すること。															
[使用テキスト・参考文献] ○株式会社日本医療企画 発行 実務者研修テキスト1 巻 ○その他、適宜プリントを配布			[単位認定の方法及び基準] ○e ラーニング利用の受講生 専用の Web ページにて解答し、7 0 点以上でその学習課題を修了とする。7 0 点未満の場合は7 0 点以上を取得するまで繰り返し問題を解かなければならない。 ○e ラーニングの利用環境にない受講生 別途配布される学習課題で7 0 点以上を取得すること。7 0 点未満の場合は、7 0 点以上を取得するまで、繰り返し再提出しなければならない。														

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 社会の理解Ⅱ		授業の種類 通信学習	授業担当者 颯川 厚子 大田原 優子
授業の回数	時間数(単位数) 30時間	配当時期 1月目	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] ○生活者、生活における適応技能について理解する。 ○家族、地域、社会との関連から生活や福祉をとらえる。 ○地域共生社会の考え方と地域包括ケアのしくみについての基礎的な知識を習得する。 ○社会保障制度の発達、体系、財源等についての基本的な知識を習得する。 ○障害者自立支援制度の体系、目的、サービスの種類と内容、利用までの流れ、利用者負担、専門職の役割等を理解する。 ○成年後見制度、生活保護制度、保健医療サービス等、介護実践に関する制度の概要を理解する。 [授業全体の内容の概要] ・社会と生活のしくみ、各国の介護と福祉の制度、障害者総合支援法、介護実践に関する諸制度（実務者研修テキスト1巻『第3章 社会と生活のしくみ』） （実務者研修テキスト1巻『第4章 各国の介護と福祉の制度』） （実務者研修テキスト1巻『第5章 障害者総合支援法』） （実務者研修テキスト1巻『第6章 介護実践に関連する諸制度』） [授業修了時の達成課題（到達目標）] ○家族、地域、社会の関連から生活と福祉をとらえることができる。 ○地域共生社会の考え方と地域包括ケアのしくみについての基本的な知識を習得している。 ○社会保障制度の発達、体系、財源等についての基本的な知識を習得している。 ○障害者総合支援法の体系、目的、サービスの種類と内容、利用までの流れ、利用者負担、専門職の役割等を理解し、利用者等に助言できる。 ○成年後見制度、生活保護制度、保健医療サービス等、介護実践に関連する制度の概要を理解している。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
日程	各回のテーマ・内容	授業方法	
1月目	社会と生活のしくみ	○各自テキストを精読し、理解度を深めた上で、学習課題提出等により、習得度の確認を行う。 ○eラーニング利用の受講生は、専用のWebページにて解答し、合格点に達するまで繰り返し学習する。eラーニングの利用環境にない受講生は、別途学習課題を配布し、合格点に達するまで繰り返し再提出すること。	
	各国の介護と福祉の制度		
	障害者総合支援法		
	介護実践に関連する諸制度		
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]	
○株式会社日本医療企画 発行 実務者研修テキスト1巻 ○その他、適宜プリントを配布		○eラーニング利用の受講生 専用のWebページにて解答し、70点以上でその学習課題を修了とする。70点未満の場合は70点以上を取得するまで繰り返し問題を解かなければならない。 ○eラーニングの利用環境にない受講生 別途配布される学習課題で70点以上を取得すること。70点未満の場合は、70点以上を取得するまで、繰り返し再提出しなければならない。	

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 介護の基本 I		授業の種類 通信学習	授業担当者 颯川 厚子 大田原 優子
授業の回数	時間数(単位数) 10 時間	配当時期 1 月 目	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] ○介護福祉制度の沿革、法的な定義、業務範囲・義務等を理解する。 ○個別ケア、ICF(国際生活機能分類)、リハビリテーション等の考え方を踏まえ、尊厳の保持、自立に向けた介護を展開するプロセス等を理解する。 ○介護福祉士の職業倫理、身体拘束禁止・虐待防止に関する法制度等を理解する。 [授業全体の内容の概要] ・介護福祉士の役割と機能、尊厳の保持、自立に向けた介護の考え方と展開、介護福祉士の倫理(実務者研修テキスト2巻 『第1章 介護福祉士の役割と機能』) (実務者研修テキスト2巻 『第2章 尊厳の保持、自立に向けた介護の考え方と展開』) (実務者研修テキスト2巻 『第3章 介護福祉士の倫理』) [授業修了時の達成課題(到達目標)] ○介護福祉士の法的な定義や義務を踏まえ、介護予防や看取り、災害時等における介護福祉士の役割を理解している。 ○個別ケア、ICF(国際生活機能分類)、リハビリテーション等の考え方を踏まえ、尊厳の保持、自立に向けた介護を展開するプロセス等を理解している。 ○介護福祉士の職業理論、身体拘束禁止・虐待防止に関する法制度等を理解し、倫理を遵守している。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
日程	各回のテーマ・内容	授業方法	
1 月 目	介護福祉士の役割と機能	○各自テキストを精読し、理解度を深めた上で、学習課題提出等により、習得度の確認を行う。 ○e ラーニング利用の受講生は、専用の Web ページにて解答し、合格点に達するまで繰り返し学習する。e ラーニングの利用環境にない受講生は、別途学習課題を配布し、合格点に達するまで繰り返し再提出すること。	
	尊厳の保持、自立に向けた介護の考え方と展開		
	介護福祉士の倫理		
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]	
○株式会社日本医療企画 発行 実務者研修テキスト2巻 ○その他、適宜プリントを配布		○e ラーニング利用の受講生 専用の Web ページにて解答し、70 点以上でその学習課題を修了とする。70 点未満の場合は70 点以上を取得するまで繰り返し問題を解かなければならない。 ○e ラーニングの利用環境にない受講生 別途配布される学習課題で70 点以上を取得すること。70 点未満の場合は、70 点以上を取得するまで、繰り返し再提出しなければならない。	

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 介護の基本Ⅱ		授業の種類 通信学習	授業担当者 颯川 厚子 大田原 優子
授業の回数	時間数(単位数) 20時間	配当時期 1月目	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] ○介護を必要とする高齢者や障害者等の生活を理解し、ニーズや支援の課題を把握する。 ○チームアプローチに関わる職種や関係機関の役割、連携方法に関する知識を習得する。 ○リスクの分析と事故防止、感染管理等、介護における安全確保に関する知識を習得する。 ○介護福祉士の心身の健康管理や労働安全対策に関する知識を習得する。 [授業全体の内容の概要] ・介護を必要とする人の生活の理解と支援、介護実践における連携、介護における安全の確保とリスクマネジメント、介護職員の健康管理と労働法規 (実務者研修テキスト2巻 『第4章 介護を必要とする人の生活の理解と支援』) (実務者研修テキスト2巻 『第5章 介護実践における連携』) (実務者研修テキスト2巻 『第6章 介護における安全の確保とリスクマネジメント』) (実務者研修テキスト2巻 『第7章 介護職員の健康管理と労働法規』) [授業修了時の達成課題（到達目標）] ○介護を必要とする高齢者や障害者等の生活を理解し、ニーズや支援の課題を把握することができる。 ○チームアプローチに関わる職種や関係機関の役割、連携方法に関する知識を習得している。 ○リスクの分析と事故防止、感染管理等、介護における安全確保に関する知識を習得している。 ○介護従事者の心身の健康管理や労働安全対策に関する知識を習得している。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
日程	各回のテーマ・内容	授業方法	
1月目	介護を必要とする人の生活の理解と支援	○各自テキストを精読し、理解度を深めた上で、学習課題提出等により、習得度の確認を行う。 ○eラーニング利用の受講生は、専用のWebページにて解答し、合格点に達するまで繰り返し学習する。eラーニングの利用環境にない受講生は、別途学習課題を配布し、合格点に達するまで繰り返し再提出すること。	
	介護実践における連携		
	介護における安全の確保とリスクマネジメント		
	介護職員の健康管理と労働法規		
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]	
○株式会社日本医療企画 発行 実務者研修テキスト2巻 ○その他、適宜プリントを配布		○eラーニング利用の受講生 専用のWebページにて解答し、70点以上でその学習課題を修了とする。70点未満の場合は70点以上を取得するまで繰り返し問題を解かなければならない。 ○eラーニングの利用環境にない受講生 別途配布される学習課題で70点以上を取得すること。70点未満の場合は、70点以上を取得するまで、繰り返し再提出しなければならない。	

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) コミュニケーション技術		授業の種類 通信学習	授業担当者 颯川 厚子 大田原 優子
授業の回数	時間数(単位数) 20時間	配当時期 1月目～2月目	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] ○介護におけるコミュニケーションの基本を理解する。 ○利用者・家族とのコミュニケーション・相談援助の技術を理解する。 ○利用者の感覚・運動・認知等の機能に応じたコミュニケーションの技法を理解する。 ○状況や目的に応じた記録、報告、会議等での情報の共有化(チームコミュニケーション)の技法を理解する。 [授業全体の内容の概要] ・コミュニケーションの基本的理解、介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション、介護におけるチームマネジメントとコミュニケーション (実務者研修テキスト3巻 『第1章 コミュニケーションの基本的理解』) (実務者研修テキスト3巻 『第2章 介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション』) (実務者研修テキスト3巻 『第3章 介護におけるチームマネジメントとコミュニケーション』) [授業修了時の達成課題 (到達目標)] ○本人・家族との支援関係を構築し、意思決定を支援することができる。 ○利用者の感覚・運動・認知等の機能に応じたコミュニケーションの技法を選択し活用できる。 ○チームマネジメント(組織の運営管理、人材管理、リーダーシップ・フォロワーシップ等)に関する知識を理解し、活用できる。 ○状況や目的に応じた記録、報告、会議等での情報の共有化ができる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
日程	各回のテーマ・内容	授業方法	
1月目 ～ 2月目	コミュニケーションの基本的理解	○各自テキストを精読し、理解度を深めた上で、学習課題提出等により、習得度の確認を行う。	
	介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション	○eラーニング利用の受講生は、専用のWebページにて解答し、合格点に達するまで繰り返し学習する。eラーニングの利用環境にない受講生は、別途学習課題を配布し、合格点に達するまで繰り返し再提出すること。	
	介護におけるチームマネジメントとコミュニケーション		
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]	
○株式会社日本医療企画 発行 実務者研修テキスト3巻		○eラーニング利用の受講生 専用のWebページにて解答し、70点以上でその学習課題を修了とする。70点未満の場合は70点以上を取得するまで繰り返し問題を解かなければならない。	
○その他、適宜プリントを配布		○eラーニングの利用環境にない受講生 別途配布される学習課題で70点以上を取得すること。70点未満の場合は、70点以上を取得するまで、繰り返し再提出しなければならない。	

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 生活支援技術Ⅰ		授業の種類 通信学習	授業担当者 颯川 厚子 大田原 優子
授業の回数	時間数(単位数) 20時間	配当時期 2月目	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] ○生活支援における ICF の意義と枠組みを理解する。 ○ボディメカニクスを活用した介護の原則を理解する。 ○介護技術の基本(移動・移乗、食事、入浴・清潔保持、排泄、着脱、整容、口腔清潔、家事援助等)を理解する。 ○居住環境の整備、福祉用具の活用等により、利用者の環境を整備する視点・留意点を理解する。			
[授業全体の内容の概要] ・生活支援と ICF、ボディメカニクスの活用、生活支援技術の基本、環境整備、福祉用具活用等の視点 (実務者研修テキスト4巻 『第1章 生活支援と ICF』) (実務者研修テキスト4巻 『第2章 ボディメカニクスの活用』) (実務者研修テキスト4巻 『第3章 生活支援技術の基本』) (実務者研修テキスト4巻 『第4章 環境整備、福祉用具活用等の視点』)			
[授業修了時の達成課題（到達目標）] ○生活支援における ICF の意義と枠組みを理解している。 ○ボディメカニクスを活用した介護の原則を理解し、実施できる。 ○自立に向けた生活支援技術の基本(移動・移乗、食事、入浴・清潔保持、排泄、着脱、整容、口腔清潔、家事援助等)を習得している。 ○居住環境の整備、福祉用具の活用等により、利用者の生活環境を整備する視点・留意点を理解している。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
日程	各回のテーマ・内容	授業方法	
2月目	生活支援と ICF	○各自テキストを精読し、理解度を深めた上で、学習課題提出等により、習得度の確認を行う。	
	ボディメカニクスの活用	○eラーニング利用の受講生は、専用の Web ページにて	
	生活支援技術の基本	解答し、合格点に達するまで繰り返し学習する。eラーニングの利用環境にない受講生は、別途学習課題を配布し、合格点に達するまで繰り返し再提出すること。	
	環境整備、福祉用具活用等の視点		
[使用テキスト・参考文献] ○株式会社日本医療企画 発行 実務者研修テキスト4巻 ○その他、適宜プリントを配布		[単位認定の方法及び基準] ○eラーニング利用の受講生 専用の Web ページにて解答し、70点以上でその学習課題を修了とする。70点未満の場合は70点以上を取得するまで繰り返し問題を解かなければならない。 ○eラーニングの利用環境にない受講生 別途配布される学習課題で70点以上を取得すること。70点未満の場合は、70点以上を取得するまで、繰り返し再提出しなければならない。	

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 生活支援技術Ⅱ		授業の種類 通信学習	授業担当者 颯川　厚子 大田原　優子
授業の回数	時間数(単位数) 30時間	配当時期 2月目	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] ○移動・移乗、食事、入浴・清潔保持、排泄、着脱・整容・口腔清潔、休息・睡眠、人生の最終段階における介護について、利用者の心身の状態に合わせた介護、福祉用具の活用、環境整備を行えるようにする。			
[授業全体の内容の概要] ・心身の状態に応じた生活支援技術と環境整備、ターミナルケア (実務者研修テキスト4巻『第5章 心身の状態に応じた生活支援技術と環境整備』) (実務者研修テキスト4巻『第6章 ターミナルケア』)			
[授業修了時の達成課題（到達目標）] ○以下について、利用者の心身の状態に合わせた、自立に向けた生活支援技術を理解し、行うことができる。 (環境整備、移動・移乗、食事、入浴・清潔保持、排泄、着脱・整容・口腔清潔、休息・睡眠、人生の最終段階における介護、福祉用具等の活用)			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
日程	各回のテーマ・内容	授業方法	
2月目	心身の状態に応じた生活支援技術と環境整備	○各自テキストを精読し、理解度を深めた上で、学習課題提出等により、習得度の確認を行う。 ○eラーニング利用の受講生は、専用のWebページにて解答し、合格点に達するまで繰り返し学習する。eラーニングの利用環境にない受講生は、別途学習課題を配布し、合格点に達するまで繰り返し再提出すること。	
	ターミナルケア		
[使用テキスト・参考文献] ○株式会社日本医療企画　発行 実務者研修テキスト4巻 ○その他、適宜プリントを配布		[単位認定の方法及び基準] ○eラーニング利用の受講生 専用のWebページにて解答し、70点以上でその学習課題を修了とする。70点未満の場合は70点以上を取得するまで繰り返し問題を解かなければならない。 ○eラーニングの利用環境にない受講生 別途配布される学習課題で70点以上を取得すること。70点未満の場合は、70点以上を取得するまで、繰り返し再提出しなければならない。	

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 介護過程 I		授業の種類 通信学習	授業担当者 穎川 厚子 大田原 優子
授業の回数	時間数(単位数) 20時間	配当時期 2月目～3月目	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] ○介護過程の基礎的知識(目的、意義、展開等)を理解する。 ○介護過程を踏まえ、目標に沿って計画的に介護を行えるようにする。 ○チームで介護過程を展開するための情報共有の方法、各職種の役割を理解する。 [授業全体の内容の概要] ・<u>ケアマネジメントと介護過程、介護の専門性を活かした介護過程、介護職同士のチームケア</u> (実務者研修テキスト5巻 『第1章 ケアマネジメントと介護過程』) (実務者研修テキスト5巻 『第2章 介護の専門性を活かした介護過程』) (実務者研修テキスト5巻 『第3章 介護職同士のチームケア』) [授業修了時の達成課題 (到達目標)] ○介護過程の目的、意義、展開等を理解している。 ○介護過程を踏まえ、目標に沿って計画的に介護を行う。 ○チームで介護過程を展開するための情報共有の方法、他の職種の役割を理解している。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
日程	各回のテーマ・内容	授業方法	
2月目 ～ 3月目	ケアマネジメントと介護過程	○各自テキストを精読し、理解度を深めた上で、学習課題提出等により、習得度の確認を行う。 ○eラーニング利用の受講生は、専用のWebページにて解答し、合格点に達するまで繰り返し学習する。eラーニングの利用環境にない受講生は、別途学習課題を配布し、合格点に達するまで繰り返し再提出すること。	
	介護の専門性を活かした介護過程		
	介護職同士のチームケア		
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]	
○株式会社日本医療企画 発行 実務者研修テキスト5巻 ○その他、適宜プリントを配布		○eラーニング利用の受講生 専用のWebページにて解答し、70点以上でその学習課題を修了とする。70点未満の場合は70点以上を取得するまで繰り返し問題を解かなければならない。 ○eラーニングの利用環境にない受講生 別途配布される学習課題で70点以上を取得すること。70点未満の場合は、70点以上を取得するまで、繰り返し再提出しなければならない。	

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 介護過程Ⅱ		授業の種類 通信学習	授業担当者 穎川 厚子 大田原 優子						
授業の回数	時間数(単位数) 2 5 時間	配当時期 2 月 目 ～ 3 月 目	必修・選択 必修						
[授業の目的・ねらい] ○利用者の状態(障害、要介護度、医療依存度、居住の場、家族の状況等)について事例を設定し、介護過程の展開方法を理解する。 ○観察のポイント、安全確保・事故防止、家族支援、他機関との連携等について理解する。 [授業全体の内容の概要] ・<u>介護職による介護過程の実際</u> (実務者研修テキスト5巻 『第4章 介護職による介護過程の実際』) [授業修了時の達成課題（到達目標）] ○情報収集、アセスメント、介護計画立案、実施、モニタリング、介護計画の見直しを行うことができる。									
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] <table><tr><td>日程</td><td>各回のテーマ・内容</td><td>授業方法</td></tr><tr><td>2 月 目 ～ 3 月 目</td><td>介護職による介護過程の実際</td><td>○各自テキストを精読し、理解度を深めた上で、学習課題提出等により、習得度の確認を行う。 ○e ラーニング利用の受講生は、専用の Web ページにて解答し、合格点に達するまで繰り返し学習する。e ラーニングの利用環境にない受講生は、別途学習課題を配布し、合格点に達するまで繰り返し再提出すること。</td></tr></table>				日程	各回のテーマ・内容	授業方法	2 月 目 ～ 3 月 目	介護職による介護過程の実際	○各自テキストを精読し、理解度を深めた上で、学習課題提出等により、習得度の確認を行う。 ○e ラーニング利用の受講生は、専用の Web ページにて解答し、合格点に達するまで繰り返し学習する。e ラーニングの利用環境にない受講生は、別途学習課題を配布し、合格点に達するまで繰り返し再提出すること。
日程	各回のテーマ・内容	授業方法							
2 月 目 ～ 3 月 目	介護職による介護過程の実際	○各自テキストを精読し、理解度を深めた上で、学習課題提出等により、習得度の確認を行う。 ○e ラーニング利用の受講生は、専用の Web ページにて解答し、合格点に達するまで繰り返し学習する。e ラーニングの利用環境にない受講生は、別途学習課題を配布し、合格点に達するまで繰り返し再提出すること。							
[使用テキスト・参考文献] ○株式会社日本医療企画 発行 実務者研修テキスト5巻 ○その他、適宜プリントを配布		[単位認定の方法及び基準] ○e ラーニング利用の受講生 専用の Web ページにて解答し、7 0 点以上でその学習課題を修了とする。7 0 点未満の場合は7 0 点以上を取得するまで繰り返し問題を解かなければならない。 ○e ラーニングの利用環境にない受講生 別途配布される学習課題で7 0 点以上を取得すること。7 0 点未満の場合は、7 0 点以上を取得するまで、繰り返し再提出しなければならない。							

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 介護過程Ⅲ		授業の種類 面接授業(スクーリング)	授業担当者 大田原 優子・大島 まつ子 安田 理香
授業の回数 8回(8日間)	時間数(単位数) 4 5 時間	配当時期 4 月 目～6 月 目	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] ○研修課程で学んだ知識・技術を確実に習得する。 ○介護過程の実際を実習を通して理解する。 ○介護技術の原理・原則の習得・実践。 [授業全体の内容の概要] ・介護職による介護過程の事例と評価 (実務者研修テキスト5巻 『第4章 介護職による介護過程の実際』) [授業修了時の達成課題(到達目標)] ○実務者研修課程で学んだ知識・技術を確実に習得し、活用できる。 ○知識・技術を総合的に活用し、利用者の心身の状況等に応じて介護過程を展開し、系統的な介護(アセスメント、介護計画立案、実施、モニタリング、介護計画の見直し等)を提供できる。 ○介護計画を踏まえ、安全確保・事故防止、家族との連携・支援、他職種・他機関との連携を行うことができる。 ○知識・技術を総合的に活用し、利用者の心身の状況等に応じた介護を行うことができる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
日程	各回のテーマ・内容	授業方法	
4 月 目 ～ 6 月 目	○1 回目(6 時間) 【介護過程の展開】 ・介護過程の基礎知識と応用	○ケアプランとサービス計画に関する基礎的理解、居宅サービス計画・訪問介護計画・通所介護計画等とサービスの関係	
	○2～6 回目(各 6 時間) 【介護過程の展開】 ・演習	○事例を用いたグループワーク・ロールプレイ	
	○7 回目(6 時間) 【介護技術の評価】	○テキストの事例に基づいた介護技術の評価(実技試験)	
	○8 回目(3 時間) 【知識等の習得度の評価】	○筆記試験、解説	
[使用テキスト・参考文献] ○株式会社日本医療企画 発行 実務者研修テキスト5巻 ○その他、適宜プリントを配布		[単位認定の方法及び基準] ○実技試験は、担当教員による評価が70点以上で合格とする。 ○筆記試験(1時間程度)は、70点以上取得で合格とする。 ※70点未満の者は再度、試験・評価を行う。 ※実技・筆記試験両方の合格により科目の修了を認定する。	

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 発達と老化の理解Ⅰ		授業の種類 通信学習	授業担当者 颯川 厚子 大田原 優子
授業の回数	時間数(単位数) 10時間	配当時期 3月目	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] ○老化に伴う心の変化と日常生活への影響を理解する。 ○老化に伴うからだ(身体的機能)の変化と日常生活への影響を理解する。			
[授業全体の内容の概要] ・老化に伴うところとからだの変化 (実務者研修テキスト6巻『第1章 老化に伴うところとからだの変化』)			
[授業修了時の達成課題（到達目標）] ○老化に伴う心理的な変化の特徴と日常生活への影響を理解している。 ○老化に伴う身体機能の変化の特徴と日常生活への影響を理解している。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
日程	各回のテーマ・内容	授業方法	
3月目	老化に伴うところとからだの変化	○各自テキストを精読し、理解度を深めた上で、学習課題提出等により、習得度の確認を行う。 ○eラーニング利用の受講生は、専用のWebページにて解答し、合格点に達するまで繰り返し学習する。eラーニングの利用環境にない受講生は、別途学習課題を配布し、合格点に達するまで繰り返し再提出すること。	
[使用テキスト・参考文献] ○株式会社日本医療企画 発行 実務者研修テキスト6巻 ○その他、適宜プリントを配布		[単位認定の方法及び基準] ○eラーニング利用の受講生 専用のWebページにて解答し、70点以上でその学習課題を修了とする。70点未満の場合は70点以上を取得するまで繰り返し問題を解かなければならない。 ○eラーニングの利用環境にない受講生 別途配布される学習課題で70点以上を取得すること。70点未満の場合は、70点以上を取得するまで、繰り返し再提出しなければならない。	

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 発達と老化の理解Ⅱ		授業の種類 通信学習	授業担当者 颯川 厚子 大田原 優子
授業の回数	時間数(単位数) 20時間	配当時期 3月目	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] ○人間の発達の定義、発達段階、発達課題について理解する。 ○老年期の発達課題、心理的な課題(老年化、役割の変化、障害、喪失、経済的不安、うつ等)と支援の留意点について理解する。 ○高齢者に多い症状・疾病等と支援の留意点について理解する。 [授業全体の内容の概要] ・老年期の発達・成熟と心理、高齢者に多い症状・疾病等と留意点 (実務者研修テキスト6巻 『第2章 老年期の発達・成熟と心理』) (実務者研修テキスト6巻 『第3章 高齢者に多い症状・疾病等と留意点』) [授業修了時の達成課題（到達目標）] ○ライフサイクル各期の発達の定義、発達段階、発達課題について理解している。 ○老年期の発達課題、心理的な課題(老化、役割の変化、障害、喪失、経済的不安、うつ等)と支援の留意点について理解している。 ○高齢者に多い症状・疾病等と支援の留意点について理解している。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
日程	各回のテーマ・内容	授業方法	
3月目	老年期の発達・成熟と心理	○各自テキストを精読し、理解度を深めた上で、学習課題提出等により、習得度の確認を行う。 ○eラーニング利用の受講生は、専用のWebページにて解答し、合格点に達するまで繰り返し学習する。eラーニングの利用環境にない受講生は、別途学習課題を配布し、合格点に達するまで繰り返し再提出すること。	
	高齢者に多い症状・疾病等と留意点		
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]	
○株式会社日本医療企画 発行 実務者研修テキスト6巻 ○その他、適宜プリントを配布		○eラーニング利用の受講生 専用のWebページにて解答し、70点以上でその学習課題を修了とする。70点未満の場合は70点以上を取得するまで繰り返し問題を解かなければならない。 ○eラーニングの利用環境にない受講生 別途配布される学習課題で70点以上を取得すること。70点未満の場合は、70点以上を取得するまで、繰り返し再提出しなければならない。	

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 認知症の理解 I		授業の種類 通信学習	授業担当者 颯川 厚子 大田原 優子
授業の回数	時間数(単位数) 10 時間	配当時期 3 月目～4 月目	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] ○認知症ケアの取組の経過を踏まえ、今日的な認知症ケアの理念を理解する。 ○認知症による生活上の障害、心理・行動の特徴を理解する。 ○認知症の人との関わり方・支援の基本を理解する。 [授業全体の内容の概要] ・認知症ケアの理念、認知症による生活障害、心理・行動の特徴と支援の基本 (実務者研修テキスト 6 巻 『第 4 章 認知症ケアの理念』) (実務者研修テキスト 6 巻 『第 5 章 認知症による生活障害、心理・行動の特徴と支援の基本』) [授業修了時の達成課題 (到達目標)] ○認知症ケアの取組の経過を踏まえ、今日的な認知症ケアの理念を理解している。 ○認知症による生活上の障害、心理・行動の特徴を理解している。 ○認知症の人やその家族に対する関わり方・支援の基本を理解している。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
日程	各回のテーマ・内容	授業方法	
3 月目 ～ 4 月目	認知症ケアの理念	○各自テキストを精読し、理解度を深めた上で、学習課題提出等により、習得度の確認を行う。	
	認知症による生活障害、 心理・行動の特徴と支援の基本	○e ラーニング利用の受講生は、専用の Web ページにて解答し、合格点に達するまで繰り返し学習する。e ラーニングの利用環境にない受講生は、別途学習課題を配布し、合格点に達するまで繰り返し再提出すること。	
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]	
○株式会社日本医療企画 発行 実務者研修テキスト 6 巻		○e ラーニング利用の受講生 専用の Web ページにて解答し、70 点以上でその学習課題を修了とする。70 点未満の場合は 70 点以上を取得するまで繰り返し問題を解かなければならない。	
○その他、適宜プリントを配布		○e ラーニングの利用環境にない受講生 別途配布される学習課題で 70 点以上を取得すること。70 点未満の場合は、70 点以上を取得するまで、繰り返し再提出しなければならない。	

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 認知症の理解Ⅱ		授業の種類 通信学習	授業担当者 颯川 厚子 大田原 優子
授業の回数	時間数(単位数) 20時間	配当時期 3月目～4月目	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] ○認知症を医学的側面からみて理解する。 ○認知症の人や家族への支援を理解する。 ○地域におけるサポート体制を理解する。 [授業全体の内容の概要] ・<u>医学的側面からみた認知症の理解、認知症の人や家族への支援の実際</u> (実務者研修テキスト6巻 『第6章 医学的側面からみた認知症の理解』) (実務者研修テキスト6巻 『第7章 認知症の人や家族への支援の実際』) [授業修了時の達成課題（到達目標）] ○代表的な認知症(若年性認知症を含む)の原因疾患、症状、障害、認知症の進行による変化、検査や治療等についての医学的知識を理解している。 ○認知症の人の生活歴、疾患、家族・社会関係、居住環境等についてアセスメントし、本人主体の理念に基づいた支援ができる。 ○地域におけるサポート体制を理解し、支援に活用できる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
日程	各回のテーマ・内容	授業方法	
3月目 ～ 4月目	医学的側面からみた認知症の理解 認知症の人や家族への支援の実際	○各自テキストを精読し、理解度を深めた上で、学習課題提出等により、習得度の確認を行う。 ○eラーニング利用の受講生は、専用のWebページにて解答し、合格点に達するまで繰り返し学習する。eラーニングの利用環境にない受講生は、別途学習課題を配布し、合格点に達するまで繰り返し再提出すること。	
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]	
○株式会社日本医療企画 発行 実務者研修テキスト6巻 ○その他、適宜プリントを配布		○eラーニング利用の受講生 専用のWebページにて解答し、70点以上でその学習課題を修了とする。70点未満の場合は70点以上を取得するまで繰り返し問題を解かなければならない。 ○eラーニングの利用環境にない受講生 別途配布される学習課題で70点以上を取得すること。70点未満の場合は、70点以上を取得するまで、繰り返し再提出しなければならない。	

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 障害の理解Ⅰ		授業の種類 通信学習	授業担当者 颯川 厚子 大田原 優子
授業の回数	時間数(単位数) 10時間	配当時期 4月目	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] ○障害の概念の変遷や障害者福祉の歴史を踏まえ、今日的な障害者福祉の理念を理解する。 ○障害(身体・知的・精神・発達障害・難病等)による生活上の障害、心理・行動の特徴を理解する。 ○障害のある人やその家族に対する関わり方・支援の基本を理解する。 [授業全体の内容の概要] ・障害者福祉の理念、介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション (実務者研修テキスト6巻 『第8章 障害者福祉の理念』) (実務者研修テキスト3巻 『第2章 介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション』) [授業修了時の達成課題（到達目標）] ○障害の概念の変遷や障害者福祉の歴史を踏まえ、今日的な障害者福祉の理念を理解している。 また障害(身体・知的・精神・発達障害・難病等)による生活上の障害、心理・行動の特徴を理解している。 ○障害のある人やその家族に対する関わり方・支援の基本を理解している。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
日程	各回のテーマ・内容	授業方法	
3月目 ～ 4月目	障害者福祉の理念	○各自テキストを精読し、理解度を深めた上で、学習課題提出等により、習得度の確認を行う。 ○eラーニング利用の受講生は、専用のWebページにて解答し、合格点に達するまで繰り返し学習する。eラーニングの利用環境にない受講生は、別途学習課題を配布し、合格点に達するまで繰り返し再提出すること。	
	介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション		
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]	
○株式会社日本医療企画 発行 実務者研修テキスト3巻 実務者研修テキスト6巻 ○その他、適宜プリントを配布		○eラーニング利用の受講生 専用のWebページにて解答し、70点以上でその学習課題を修了とする。70点未満の場合は70点以上を取得するまで繰り返し問題を解かなければならない。 ○eラーニングの利用環境にない受講生 別途配布される学習課題で70点以上を取得すること。70点未満の場合は、70点以上を取得するまで、繰り返し再提出しなければならない。	

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 障害の理解Ⅱ		授業の種類 通信学習	授業担当者 颯川 厚子 大田原 優子
授業の回数	時間数(単位数) 20時間	配当時期 4月目	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] ○障害を医学的側面からみて理解する。 ○障害(児)者や家族への支援を理解する。 ○地域におけるサポート体制を理解する。 [授業全体の内容の概要] ・医学的側面からみた障害の理解、障害(児)者への支援の実際 (実務者研修テキスト6巻 『第9章 医学的側面からみた障害の理解』) (実務者研修テキスト6巻 『第10章 障害(児)者への支援の実際』) [授業修了時の達成課題（到達目標）] ○様々な障害の種類・原因・特性、障害に伴う機能の変化等についての医学的知識を習得している。 ○障害の特性、家族・社会関係、居住環境等についてアセスメントし、その状況に合わせた支援ができる。 ○地域におけるサポート体制を理解し、支援に活用できる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
日程	各回のテーマ・内容	授業方法	
4月目	医学的側面からみた障害の理解	○各自テキストを精読し、理解度を深めた上で、学習課題提出等により、習得度の確認を行う。 ○eラーニング利用の受講生は、専用のWebページにて解答し、合格点に達するまで繰り返し学習する。eラーニングの利用環境にない受講生は、別途学習課題を配布し、合格点に達するまで繰り返し再提出すること。	
	障害(児)者への支援の実際		
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]	
○株式会社日本医療企画 発行 実務者研修テキスト6巻 ○その他、適宜プリントを配布		○eラーニング利用の受講生 専用のWebページにて解答し、70点以上でその学習課題を修了とする。70点未満の場合は70点以上を取得するまで繰り返し問題を解かなければならない。 ○eラーニングの利用環境にない受講生 別途配布される学習課題で70点以上を取得すること。70点未満の場合は、70点以上を取得するまで、繰り返し再提出しなければならない。	

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） こころとからだのしくみⅠ		授業の種類 通信学習	授業担当者 颯川 厚子 大田原 優子
授業の回数	時間数(単位数) 20時間	配当時期 4月目～5月目	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] ○介護に関係した身体の構造や機能に関する基本的な知識(移動・移乗、食事、入浴・清潔保持、排泄、着脱、整容、口腔清潔等)を理解する。 [授業全体の内容の概要] ・身じたく(着脱・整容・口腔)に関連したしくみ、移動に関連したしくみ、食事に関連したしくみ、入浴・清潔保持に関連したしくみ、排泄に関連したしくみ、睡眠に関連したしくみ (実務者研修テキスト7巻 『第1章 身じたく(着脱・整容・口腔)に関連したしくみ』) (実務者研修テキスト7巻 『第2章 移動に関連したしくみ』) (実務者研修テキスト7巻 『第3章 食事に関連したしくみ』) (実務者研修テキスト7巻 『第4章 入浴・清潔保持に関連したしくみ』) (実務者研修テキスト7巻 『第5章 排泄に関連したしくみ』) (実務者研修テキスト7巻 『第6章 睡眠に関連したしくみ』) [授業修了時の達成課題（到達目標）] ○介護に関係した身体の構造や機能に関する基本的な知識を習得している。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
日程	各回のテーマ・内容	授業方法	
4月目 ～ 5月目	身じたく(着脱・整容・口腔)に関連したしくみ	○各自テキストを精読し、理解度を深めた上で、学習課題提出等により、習得度の確認を行う。 ○eラーニング利用の受講生は、専用のWebページにて解答し、合格点に達するまで繰り返し学習する。eラーニングの利用環境にない受講生は、別途学習課題を配布し、合格点に達するまで繰り返し再提出すること。	
	移動に関連したしくみ		
	食事に関連したしくみ		
	入浴・清潔保持に関連したしくみ		
	排泄に関連したしくみ		
	睡眠に関連したしくみ		
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]	
○株式会社日本医療企画 発行 実務者研修テキスト7巻 ○その他、適宜プリントを配布		○eラーニング利用の受講生 専用のWebページにて解答し、70点以上でその学習課題を修了とする。70点未満の場合は70点以上を取得するまで繰り返し問題を解かなければならない。 ○eラーニングの利用環境にない受講生 別途配布される学習課題で70点以上を取得すること。70点未満の場合は、70点以上を取得するまで、繰り返し再提出しなければならない。	

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) こころとからだのしくみⅡ		授業の種類 通信学習	授業担当者 瀬川 厚子 大田原 優子
授業の回数	時間数(単位数) 6 0 時間	配当時期 4 月 日～5 月 日	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] ○人間の基本的欲求、学習・記憶等に関する基礎的知識を習得する。 ○生命の維持・恒常、人体の部位、骨格・関節・筋肉・神経、ボディメカニクス等、人体の構造と機能についての基本的な知識を習得する。 ○身体の仕組み、心理・認知機能等を踏まえた介護におけるアセスメント・観察のポイント、介護・連携等を理解する。(留意点：移動・移乗・食事・入浴・清潔保持・排泄・着脱、整容、口腔清潔・睡眠・終末期の介護) [授業全体の内容の概要] ・人間の心理、人体の構造と機能、こころとからだのしくみを踏まえた介護における変化の気づきと対応、死にゆく人のこころとからだのしくみ (実務者研修テキスト7巻 『第7章 人間の心理』) (実務者研修テキスト7巻 『第8章 人体の構造と機能』) (実務者研修テキスト7巻 『第9章 こころとからだのしくみを踏まえた介護における変化の気づきと対応』) (実務者研修テキスト7巻 『第10章 入浴・清潔保持に関連したしくみ』) [授業修了時の達成課題(到達目標)] ○人間の基本的欲求、学習・記憶等に関する基礎的知識を習得している。 ○生命の維持・恒常、人体の部位、骨格・関節・筋肉・神経、ボディメカニクス等、人体の構造と機能についての基本的な知識を習得している。 ○身体の仕組み、心理・認知機能等についての知識を活用し、観察・アセスメント、関連する職種との連携が行える。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
日程	各回のテーマ・内容	授業方法	
4 月 日 ～ 5 月 日	人間の心理	○各自テキストを精読し、理解度を深めた上で、学習課題提出等により、習得度の確認を行う。 ○eラーニング利用の受講生は、専用の Web ページにて解答し、合格点に達するまで繰り返し学習する。eラーニングの利用環境にない受講生は、別途学習課題を配布し、合格点に達するまで繰り返し再提出すること。	
	人体の構造と機能		
	こころとからだのしくみを踏まえた介護における変化の気づきと対応		
	死にゆく人のこころとからだのしくみ		
[使用テキスト・参考文献] ○株式会社日本医療企画 発行 実務者研修テキスト7巻 ○その他、適宜プリントを配布		[単位認定の方法及び基準] ○eラーニング利用の受講生 専用の Web ページにて解答し、70点以上でその学習課題を修了とする。70点未満の場合は70点以上を取得するまで繰り返し問題を解かなければならない。 ○eラーニングの利用環境にない受講生 別途配布される学習課題で70点以上を取得すること。70点未満の場合は、70点以上を取得するまで、繰り返し再提出しなければならない。	

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 医療的ケア		授業の種類 通信学習	授業担当者 甲斐 節子 黒木 洋
授業の回数	時間数(単位数) 50時間	配当時期 5月目～6月目	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] ○医療的ケア(喀痰吸引、経管栄養等)を安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得する。 [授業全体の内容の概要] ・安全な療養生活、清潔保持と感染予防、高齢者および障害(児)者の「たん吸引」概論、 <u>高齢者および障害(児)者の「経管栄養」概論、「たんの吸引」の実践、「経管栄養」の実践</u> (実務者研修テキスト8巻 『第1章 安全な療養生活』) (実務者研修テキスト8巻 『第2章 清潔保持と感染予防』) (実務者研修テキスト8巻 『第3章 高齢者および障害(児)者の「たんの吸引」概論』) (実務者研修テキスト8巻 『第5章 高齢者および障害(児)者の「経管栄養」概論』) (実務者研修テキスト8巻 『第4章 「たんの吸引」の実践』) (実務者研修テキスト8巻 『第6章 「経管栄養」の実践』) 【医療的ケアを学習する前提的要素として】 ・人間の尊厳と医療の倫理、医療・介護関連法規とチーム医療 (実務者研修テキスト8巻 『第7章 人間の尊厳と医療の倫理』) (実務者研修テキスト8巻 『第8章 医療・介護関連法規とチーム医療』) [授業修了時の達成課題(到達目標)] ○医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得する。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
日程	各回のテーマ・内容	授業方法	
4月目 ～ 5月目	安全な療養生活	○各自テキストを精読し、理解度を深めた上で、学習課題提出等により、習得度の確認を行う。 ○eラーニング利用の受講生は、専用のWebページにて解答し、合格点に達するまで繰り返し学習する。eラーニングの利用環境にない受講生は、別途学習課題を配布し、合格点に達するまで繰り返し再提出すること。	
	清潔保持と感染予防		
	高齢者および障害(児)者の「たんの吸引」概論		
	高齢者および障害(児)者の「経管栄養」概論		
	「たんの吸引」の実践		
	「経管栄養」の実践		
	人間の尊厳と医療の倫理		
	医療・介護関連法規とチーム医療		
[使用テキスト・参考文献] ○株式会社日本医療企画 発行 実務者研修テキスト8巻 ○その他、適宜プリントを配布		[単位認定の方法及び基準] ○eラーニング利用の受講生 専用のWebページにて解答し、70点以上でその学習課題を修了とする。70点未満の場合は70点以上を取得するまで繰り返し問題を解かなければならない。 ○eラーニングの利用環境にない受講生 別途配布される学習課題で70点以上を取得すること。70点未満の場合は、70点以上を取得するまで、繰り返し再提出しなければならない。 ※通信・演習両方の合格により科目の修了を認定する。	

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 医療的ケア（演習）		授業の種類 面接授業（スクーリング）		授業担当者 甲斐 節子 黒木 洋									
授業の回数 2 回（2 日間）	時間数（単位数） 1 2 時間	配当時期 6 月 目		必修・選択 必修									
[授業の目的・ねらい] ○医療的ケア（喀痰吸引、経管栄養等）を安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得する。 [授業全体の内容の概要] ・演習（喀痰吸引・経管栄養・救急蘇生法） [授業修了時の達成課題（到達目標）] ○医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得する。													
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] <table><tr><td>日程</td><td>各回のテーマ・内容</td><td>授業方法</td></tr><tr><td rowspan="2">6 月 目</td><td>1 回目（6 時間） ①演習：喀痰吸引 ②演習：救急蘇生法</td><td>○喀痰吸引の基礎的知識と実施手順の確認後、シミュレーターによる喀痰吸引の実技演習を行う。 ・口腔内の喀痰吸引（5 回以上） ・鼻腔内の喀痰吸引（5 回以上） ・気管カニューレ内部の喀痰吸引（5 回以上） ○救急蘇生法の実技演習（1 回以上）</td></tr><tr><td>2 回目（6 時間） ①演習：経管栄養 ②演習：救急蘇生法</td><td>○経管栄養の基礎的知識と実施手順の確認後、シミュレーターによる経管栄養の実技演習を行う。 ・胃ろう又は腸ろうの経管栄養（5 回以上） ・経鼻経管栄養（5 回以上） ○救急蘇生法の実技演習（1 回以上）</td></tr></table>						日程	各回のテーマ・内容	授業方法	6 月 目	1 回目（6 時間） ①演習：喀痰吸引 ②演習：救急蘇生法	○喀痰吸引の基礎的知識と実施手順の確認後、シミュレーターによる喀痰吸引の実技演習を行う。 ・口腔内の喀痰吸引（5 回以上） ・鼻腔内の喀痰吸引（5 回以上） ・気管カニューレ内部の喀痰吸引（5 回以上） ○救急蘇生法の実技演習（1 回以上）	2 回目（6 時間） ①演習：経管栄養 ②演習：救急蘇生法	○経管栄養の基礎的知識と実施手順の確認後、シミュレーターによる経管栄養の実技演習を行う。 ・胃ろう又は腸ろうの経管栄養（5 回以上） ・経鼻経管栄養（5 回以上） ○救急蘇生法の実技演習（1 回以上）
日程	各回のテーマ・内容	授業方法											
6 月 目	1 回目（6 時間） ①演習：喀痰吸引 ②演習：救急蘇生法	○喀痰吸引の基礎的知識と実施手順の確認後、シミュレーターによる喀痰吸引の実技演習を行う。 ・口腔内の喀痰吸引（5 回以上） ・鼻腔内の喀痰吸引（5 回以上） ・気管カニューレ内部の喀痰吸引（5 回以上） ○救急蘇生法の実技演習（1 回以上）											
	2 回目（6 時間） ①演習：経管栄養 ②演習：救急蘇生法	○経管栄養の基礎的知識と実施手順の確認後、シミュレーターによる経管栄養の実技演習を行う。 ・胃ろう又は腸ろうの経管栄養（5 回以上） ・経鼻経管栄養（5 回以上） ○救急蘇生法の実技演習（1 回以上）											
[使用テキスト・参考文献] ○株式会社日本医療企画 発行 実務者研修テキスト 8 巻 ○その他、適宜プリントを配布		[単位認定の方法及び基準] ○喀痰吸引 口腔内・鼻腔内・気管カニューレ内部の喀痰吸引のシミュレーター演習を各 5 回以上実施し、最終回にて担当教員による評価が 7 0 点以上で合格とする。 ○経管栄養 胃ろう又は腸ろう・経鼻経管栄養のシミュレーター演習を各 5 回以上実施し、最終回にて担当教員による評価が 7 0 点以上で合格とする。 ※ 7 0 点未満の者は再度、試験・評価を行う。 ※ 通信・演習両方の合格により科目の修了を認定する。											